

国際医療福祉大学大学院公開講座
生きた教科書「でんぐりがえしプロジェクト」
逆転の手法で社会を変えた人々に学ぶ
初回ゲスト、大原さやか先生へ

感じたら動くということ
一歩、踏み出された勇氣に感謝して

2016年10月2日
生井久美子（いくいくみこ）

公の場で自分の病気について話すのは、今回が初めてとうかがいました。
話し終えられて数日たち、いま、さやか先生はどんなお気持ちでしょうか？

自分のことを話す。

ありのままに、具体的に話す。

私は、その勇氣に感銘を受けました。

ともにすごせたことを感謝し、お話を伺えた重みを感じています。

きっとお話下さったこと以外に、いろいろなことがあったと思います。ここまで生きてきてくださってありがとうございます。そして、その前にまず、生まれてきてくださって、ありがとうございます。この世で、いま出会えたことを神様に感謝しています。

駅でうずくまったときにどうしたか。「私は戻らなきゃいけないんだ」と思ったと話してくださいました。

よく、戻られましたね。そうした人生の別れ道があるのですね。とても心に残っています。

保護室で拘束されていたときのこと、看護師さんの言葉、対応、それをどのように受けとめたか。その場面が目には浮かぶようでした。

3浪して大学へ進学し、大学をデイケアに。

「自分の中であきらめなかった」と話してくださいました。日々、いくつか

のことをあきらめそうになる自分に、カツをいれられたようでした。

「無関心でないように」関心をもち続け、行動しなくてはと思いました。

そして、「笑笑」で、受講生の一人が、「弟が統合失調症で」と話されたこと。これは、さやか先生が話してくださったからですね。すごい。

私はとても胸打たれました。彼女が打ち明けることによって、これは何と表現すればよいのでしょうか…。弟さんの苦しみや苦勞に、ふっと光がさしたようにも感じました。弟を隠さない。その存在を伝える言葉から、あたたかなきょうだいの思いが伝わってきました。話した彼女にとっても、きっと特別な夜になったと思います。話し始める前に「どうしようかなあ」といってから、静かに話されましたね。私は、あの夜、彼女は素敵だなあとと思いました。

さやか先生が、一人の人が一歩踏み出すことが、人をゆさぶり、こんなことがおきるのだ、と胸打たれました。

これは、さやか先生と出会い、すぐにゼミと公開講座に招かれたゆきさん（大熊由紀子教授）のすごさのおかげでもあります。よく、ゆきさんがさやか先生に出会ってくださったな、と思います。あのオープンダイアログの会に出かけてゆかなければ、出会わなかったのですよね？

改めて、ゆきさんの行動力に敬服しています。

今回、公開講座の初回に、その場にいわせた私が、どう踏み出すか。

そこを問われている、と感じています。

最近、以前よりもあらゆることに時間がかかり、へこたれ、疲弊気味ですが、言い訳をせずに、自分にできることをします。

いま、認知症の当事者の方の取材をしています。2014年秋に、日本で初めての認知症の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」が発足しました。その共同代表のひとり、藤田和子さんはよくこう話します。

「当事者の話をきくと、みんな感動した感動した、という。でもただ感動しただけでは…。感動は、感じたら動くということだから」と。

この言葉を、さやか先生の話を読み返しています。

私も、動こう。

自分をごまかさずに、突き進もうと思いました。

すてきな出会いをありがとうございました。

止